

映像作品視聴時の 語彙学習ストラテジーの利用 —日本語教育への応用に向けて

彭悦

◆要旨

本稿では、日本語教育における映像作品の利用について、30名の中国語を母語とする中上級学習者を対象とし、日本語の映像作品視聴時に使用される語彙学習ストラテジーに関して調査を行った。具体的には、学習者が通常時映像作品を視聴する際と時間制限やテストのある前提で視聴する際との2つの場合を考慮し、それぞれの場合における語彙学習ストラテジー間の関連性を考察した上で、その類似点と相違点を分析した。さらに、分析結果を基に、音声面の工夫によって語彙の記憶を強化させることや語形変化と語構造に関する基本的な知識を事前に教えること、学習した語彙知識のメモを整理する宿題を課すことなど、日本語教育への応用の可能性を提案した。

◆キーワード

映像作品、語彙学習、ストラテジー、教育への応用

◆ABSTRACT

The present paper reports on the findings of a video-based language education experiment involving intermediate and advanced learners of Japanese. The participants (n=30 native Chinese [Mandarin] speakers) were observed to see whether the learning strategies that they employed while watching Japanese-language video content was affected when told that there would be a time limit, or that a post-test would be administered. Based on analysis of the experimental data, suggestions are made regarding how greater emphasis on the phonetic aspect of learning, prior knowledge of word inflections and word structures, as well as homework activities in which learners organize their vocabulary notes could be applied to Japanese as a foreign language (JFL) teaching and aid learners' acquisition of new vocabulary.

◆KEY WORDS

audiovisual media, vocabulary learning, strategies, pedagogical application

The Use of Vocabulary Learning Strategies
in Viewing Audiovisual Materials
Pedagogical Suggestions for Japanese Language Education
PENG YUE

1 はじめに

映像作品は、真正性の高い学習リソースとして位置づけられている（保坂・Gehrtz三隅・門脇2012）。語彙学習において映像作品を利用する場合は、学習の動機づけになる（谷口2012,保坂他2012）だけでなく、学習者は語彙を文脈の中で学習できるという利点もある。また、通常の紙媒体の教材と比べて、視覚と聴覚の両方から刺激される映像作品を利用する場合は、語彙習得がより促進されることも指摘されている（古樋2009）。しかし、現在、日本語の映像作品は教師と学習者によって効率的に使用されているとは言えない状態にある。

この状況を改善するために、学習ストラテジーの研究が非常に重要だと考えられる。語彙学習ストラテジーを効率的に使用することによって、自主性のある学習者が育てられ、語彙習得も促進できる（Ghazal2007）。

本稿では、語彙学習ストラテジーの観点から、日本語の映像作品を教室に導入する際に、教師はどのような点に注意すべきか、どのような工夫が必要なのかななどを提案する。

2 先行研究

2.1 語彙学習ストラテジー

Oxford(2003)の定義によると、「学習ストラテジー」とは、学習をより容易に、より早く、より楽しく、より自主的に、より効率的に、より新しい環境に適応できるようにするための学習者による具体的な行動である。語彙学習ストラテジーは、言語学習ストラテジーの一部だと考えられ（Nation 2001）、語彙学習に焦点を当てたものである。

研究者によって、語彙学習ストラテジーの分類が分かれている。例えば、Nation(2001)は語彙学習ストラテジーを「Planning」(プランニング)、「Sources」(情報源)と「Processes」(処理過程)の3つに分類している。また、Gu & Johnson(1996)では、「メタ認知規則」、「推測ストラテジー」、「辞書ストラテジー」、「ノート

テイキングストラテジー」、「記憶ストラテジー(リハーサル)」、「記憶ストラテジー(エンコーディング)」、「活性化のストラテジー」という7つのカテゴリーが作られている。

2.2 映像作品を利用した語彙学習

映像作品を利用した語彙学習に関する研究は、授業内での利用を考察するものもあれば、授業外での利用を考察するものもある。授業内の研究として、谷口・ローズ平田・岩下(2013)とローズ平田・岩下・谷口(2014)は、関与負荷仮説に基づいて研究を行い、インターアクションを通じた語彙学習を目指す実践を行った。その結果、参加者が映像の内容を描写する活動時のインターアクションにおいて、語彙学習が促進される状況が生まれることが示唆された。一方、岩下・岩本・三國・谷口(2012)では、日本語学習者の授業外におけるマルチメディア日本語コンテンツ使用時の学習ストラテジーの特徴を明らかにするために、日本語学習歴が1年以上の20代の学習者を対象として、学習ストラテジーの使用実態に関する質的調査および学習ストラテジーの使用頻度についての量的調査を行った。その結果、日本語学習者が使用している学習ストラテジーは58項目からなり、「社会文化への注意」、「語彙の理解」、「語彙の記憶」、「文字による理解」、「内容への集中」、「音声への注意」の6つの因子によって構成されていることが示唆され、その中で、語彙学習と関連するものは、「語彙の理解」と「語彙の記憶」であった。

以上から、映像視聴における語彙学習研究では、学習者の間のインターアクションが語彙習得を促進することと映像作品視聴時の語彙学習は理解だけでなく、記憶の側面からも考慮する必要があることがわかった。しかし、学習者が授業外で映像作品を使って個別に学習する場合に、具体的にどのように学習しているか、また、映像作品が教室内へ導入された場合に、学習がどのように変化していくかについてはまだ不明である。これを明らかにすることによって、映像作品を授業内に取り入れる際に、語彙学習にあたって、どのような工夫が必要なのかについて示唆を与えることができると考えられる。

3 本稿の目的

本稿は、日本語の映像作品視聴時に使用される語彙学習ストラテジー間の関連性を明らかにし、映像作品の利用時の語彙学習について提案することを目的としている。この「映像作品視聴時」は2つの場合に分かれている。一つは、①時間制限を設け、②最後に語彙テストをするという条件下で視聴する場合であり、もう一つは学習者が通常時、日本語の映像作品を視聴する、つまり、上の2つの制限のない条件下で視聴する場合である。ここでいう「通常時」は、この調査が行われる以前の経験を全て含むものである。通常時と比べて、調査時は映像作品が教室内へ導入された場合と同様に、時間的な制約が生じ、学習の成果が注目されると考えられる。本稿では、この2つの場合における語彙学習ストラテジーの使用状況を考慮に入れ、それぞれ「調査時」と「通常時」と略す。

具体的には、まず、通常時の視聴で使用された語彙学習ストラテジー間の関連性と、調査時の視聴で使用された語彙学習ストラテジー間の関連性を明らかにする。そして、この2つの場合における語彙学習ストラテジー間の関連性を比較する。最後に、以上に基づき、映像作品を利用した語彙学習についてどのような提案ができるかを検討する。

4 調査方法と手順

本稿では、30名の調査協力者に協力を求めた。1人ずつ来てもらい、筑波日本語テスト集のSPOT (Simple Performance-Oriented Test 90というテスト (以下、「SPOT 90」と略す))を受けてもらった後、映像作品を視聴させた。視聴開始前に、協力者に「視聴後に、この映像の内容と語彙について質問するので、30分を使って自由に学習してください」と案内し、8分間の映像作品を自由に視聴してもらった。電子辞書、メモ用紙、ペン、消しゴムを事前にデスクに置いて、スマートフォンの使用も許可した。視聴させる前に、早送りや早戻し、再生、字幕の有無の切り替えなどの方法を教え、視聴時に自由に操作してもらった。字幕に関しては、初期設定は「字幕なし」であったが、視聴時は「日本語字幕」と「字

幕なし」のモードを随時切り替え可能とした。視聴中はヘッドホンを付けさせた。視聴開始30分後に視聴を終了させ、映像のあらすじと主人公の特徴について口頭で確認した。その結果、全員がおおよそそのストーリーと主人公の特徴を理解していたことが確認された。最後に、語彙学習ストラテジーについての質問紙を配り、通常時と調査時のストラテジーの使用状況について答えさせた。

4.1 調査協力者

本稿の調査協力者は、30名の中国語母語話者の日本語学習者である。SPOT 90の判定によって、全員の日本語レベルが中級以上と判断された。日本語能力試験の基準と対応すると、全員がN2以上のレベルに相当する。また、2018年8月調査時は、全員が日本に在住しており、3ヶ月以上の滞在歴がある。

4.2 映像作品の素材

本稿で扱う「映像作品」は、「意図的に教室用や言語学習用に作成されたものではない映画、ドラマ、アニメなどストーリー性のあるもの」(谷口2012:144)とする。2007年に放送された日本のドラマ『ホテルノヒカリ』の第1話の最初の8分間を視聴の素材とした。実験素材として、協力者がすでに観た可能性が低く、かつそれほど古めかしい印象を与えないよう、約10年前の映像作品から選んだ。実際、協力者全員から以前に観たことがないとの報告を得ている。また、この8分間の中に、主人公の独り言、職場の会話、食事の会話など多様な表現が含まれており、話のスピードや口調も話者により異なっているため、豊かな言語素材だと考えられる。

4.3 アンケート

本稿では、Gu & Johnson (1996) のアンケートを基に質問項目を作り、学習者による通常時と調査時の映像作品視聴で使用された語彙学習ストラテジーの使用について調べた。Gu & Johnson (1996) のアンケートは英語学習者に向けて作られたものであり、語彙学習ストラテジーに関する項目が91個あった。その91項目の中から、日本語の語彙学習にあてはまりにくい1項目を除外し、最終的に90項目のアンケートとなった。そして、調査協力者が映像作品の視

聴を想定しやすいように、この90項目の内容に「映像作品視聴時」のような言葉を入れた。また、各項目において、通常時の映像作品視聴時における語彙学習ストラテジーの使用状況については、「以前このようにしたことがありますか?」という質問に対して、「1. 全くしたことがない」、「2. 偶にしていた」、「3. よくしていた」と「4. いつもしていた」の中から選んでもらった。今回の使用状況に関しては、30分の視聴という限られた状況下では頻度について答えることが難しいため、「今回このようにしましたか?」という質問に対して、「1. しなかった」と「2. した」から答えを選択してもらった。

4.4 分析方法

本稿における語彙学習ストラテジーの分類について、表1が示すように、Gu & Johnson (1996)、Gu & Hu (2003)、Gu (2010, 2018) を基に整理し、天野 (2017) の日本語訳を使用した。

語彙を学習する段階によって、4つのディメンションに分かれ、それぞれのディメンションがまたいくつかの下位カテゴリーを持っている。合計で7つのカテゴリーがあるが、それぞれがさらに、20個のストラテジーブロックに分かれている。また、それぞれのストラテジーブロックに、それを描写する具体的なストラテジー行動が3～8項目あり、合計で90項目(付録を参照)になる。本稿では、ストラテジー間の関連性をより簡潔に、よりわかりやすく示すために、ストラテジーブロックごとに、使用者数の平均値を出してから相関分析を行った。使用者数の算出の仕方として、通常時の場合は「1. 全くしたことがない」以外のものを選んだ人数を、調査時の場合は「2. した」を選んだ人数を、当該ストラテジーの使用者数と見做す。

5 調査結果と考察

5.1 通常時の映像作品視聴における語彙学習ストラテジーの関連性

通常時の映像作品視聴の場合に関して、ストラテジーブロックごとに使用者数の平均値を算出した後、ピアソンの相関分析を行った。その結果、表2に示

表1 本稿における語彙学習ストラテジーの分類 (Gu & Johnson (1996)、Gu & Hu (2003)、Gu (2010, 2018) を参考に) (D2の「最初」は、新しい語に遭遇した時から記憶強化を行う前までの段階を指す)

| | ディメンション (D) | カテゴリー (C) | ストラテジーブロック (項目数) (SB) | |
|-----------------------|--|-----------------------|--|---|
| メタ認知 ストラテジー | D1 メタ認知 | C1 メタ認知 ストラテジー | SB1 選択の注意 (7) SB2 自主性 (5) | |
| | | D2 最初の処理 | C2 文脈推測 ストラテジー | SB3 背景知識や広い文脈を使う (7) SB4 言語的な手がかり/すぐ周りの文脈を使う (5) |
| C3 辞書 ストラテジー | SB5 理解のための辞書ストラテジー (4) SB6 拡大したストラテジー (8) SB7 辞書を引くためのストラテジー (4) | | | |
| C4 ノートテイキング ストラテジー | SB8 意味を重視したノートテイキングストラテジー (5) SB9 用法を重視したノートテイキングストラテジー (4) | | | |
| 認知 ストラテジー | D3 強化 | C5 リハーサル ストラテジー | SB10 リストを使う (6) SB11 口頭による繰り返し (3) SB12 視覚による繰り返し (3) | |
| | | C6 エンコーディング ストラテジー | SB13 連想/精緻化 (4) SB14 イメージを使う (4) SB15 視覚的なエンコーディング (3) SB16 聴覚的なエンコーディング (3) SB17 語構造を使う (3) SB18 意味的なエンコーディング (3) SB19 文脈的なエンコーディング (4) | |
| | D4 活性化 | | C7 活性化 ストラテジー | SB20 活性化のストラテジー (5) |

されているように、6つのペアのストラテジーブロックの間に、強い正の相関関係 ($r=0.7\sim 1.0$) が見られた。

6つのペアの中に、同じカテゴリーに属するペアは3つある。まず、「SB3 背景知識や広い文脈を使う」と「SB4 言語的な手がかり/すぐ周りの文脈を使う」($r=.73$) は「C2 文脈推測ストラテジー」というカテゴリーに属するものであり、このペアに強い正の相関関係があったことより、学習者は通常時の映像作品視聴時において語彙学習をする場合、広い文脈と前後の文脈を統合的に利用していることがわかる。次に、「SB5 理解のための辞書ストラテジー」と「SB7 辞書を引くためのストラテジー」が強い相関を示していることから ($r=.71$)、語彙を理解するための辞書ストラテジーは、辞書を引くためのストラテジーとともに使用される

表2 通常時の映像作品視聴における語彙学習ストラテジー間の関連

| | SB1 | SB2 | SB3 | SB4 | SB5 | SB6 | SB7 | SB8 | SB9 | SB10 | SB11 | SB12 | SB13 | SB14 | SB15 | SB16 | SB17 | SB18 | SB19 | SB20 |
|------|-----|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|------|
| SB1 | — | .46* | .69** | .59** | .72** | .33 | .72** | .21 | .17 | -.17 | .33 | -.31 | -.12 | -.18 | .09 | .22 | .30 | -.05 | .71** | .26 |
| SB2 | | — | .31 | .11 | .58** | .14 | .49** | .07 | .09 | -.16 | .38* | -.19 | -.13 | -.36* | -.12 | .03 | -.01 | -.21 | .35 | -.05 |
| SB3 | | | — | .73** | .59** | .12 | .53** | -.01 | .01 | -.31 | .12 | -.35 | -.15 | -.43* | -.15 | .01 | .34 | -.14 | .49** | .33 |
| SB4 | | | | — | .46** | .24 | .50** | -.01 | .01 | -.24 | -.01 | -.37* | .05 | -.28 | .08 | .13 | .59** | .06 | .37* | .33 |
| SB5 | | | | | — | -.01 | .71** | -.19 | -.19 | -.32 | .53** | -.27 | -.21 | -.36 | -.07 | .31 | .12 | -.26 | .69** | .20 |
| SB6 | | | | | | — | .28 | .57** | .61** | .43* | .12 | .24 | .38* | -.16 | .14 | .02 | .13 | .19 | .37* | .17 |
| SB7 | | | | | | | — | .19 | .25 | -.07 | .60** | -.14 | .14 | -.05 | .09 | .33 | .37* | .17 | .58** | .37* |
| SB8 | | | | | | | | — | .80** | .57** | .06 | .35 | .30 | .24 | .29 | -.19 | .08 | .47** | .07 | .05 |
| SB9 | | | | | | | | | — | .62** | .15 | .45* | .46* | .29 | .23 | -.11 | .31 | .40* | .06 | .21 |
| SB10 | | | | | | | | | | — | .04 | .56** | .55** | .45* | .34 | .23 | .08 | .33 | -.09 | .18 |
| SB11 | | | | | | | | | | | — | .30 | .26 | .07 | -.06 | .32 | -.05 | .00 | .48** | .45* |
| SB12 | | | | | | | | | | | | — | .39* | .34 | .24 | .04 | -.17 | -.01 | -.10 | .19 |
| SB13 | | | | | | | | | | | | | — | .31 | .38* | .39* | .12 | .47** | .04 | .34 |
| SB14 | | | | | | | | | | | | | | — | .34 | .35 | .29 | .45* | -.16 | .19 |
| SB15 | | | | | | | | | | | | | | | — | .37* | .27 | .34 | .09 | .21 |
| SB16 | | | | | | | | | | | | | | | | — | .23 | .12 | .44* | .42* |
| SB17 | | | | | | | | | | | | | | | | | — | .32 | .21 | .45* |
| SB18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | — | -.05 | .10 |
| SB19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | — | .37* |
| SB20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | — |

* $p < .05$, ** $p < .01$, $d = 28$. SB1=選択の注意, SB2=自主性, SB3=背景知識や広い文脈を使う, SB4=言語的な手がかり/すぐ周りの文脈を使う, SB5=理解のための辞書ストラテジー, SB6=拡大したストラテジー, SB7=辞書を引くためのストラテジー, SB8=意味を重視したノートテイキングストラテジー, SB9=用法を重視したノートテイキングストラテジー, SB10=リストを使う, SB11=口頭による繰り返し, SB12=視覚による繰り返し, SB13=連想/精緻化, SB14=イメージを使う, SB15=視覚的なエンコーディング, SB16=聴覚的なエンコーディング, SB17=語構造を使う, SB18=意味的なエンコーディング, SB19=文脈的なエンコーディング, SB20=活性化ストラテジー。

表3 調査時の映像作品視聴における語彙学習ストラテジー間の関連

| | SB1 | SB2 | SB3 | SB4 | SB5 | SB6 | SB7 | SB8 | SB9 | SB10 | SB11 | SB12 | SB13 | SB14 | SB15 | SB16 | SB17 | SB18 | SB19 | SB20 |
|------|-----|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| SB1 | — | .49** | .67** | .56** | .57** | .35 | .12 | .40* | .28 | -.20 | .11 | .30 | .22 | .34 | .32 | .23 | .25 | .40* | .53** | .40* |
| SB2 | | — | .39* | .05 | .32 | .05 | -.15 | .24 | .31 | -.22 | -.26 | -.02 | -.19 | -.04 | .02 | -.32 | -.04 | .12 | .19 | .14 |
| SB3 | | | — | .70** | .60** | .27 | .20 | .14 | .22 | -.12 | .05 | .34 | .10 | .27 | .19 | .24 | .36 | .35 | .30 | .34 |
| SB4 | | | | — | .62** | .42* | .30 | .34 | .11 | -.14 | .09 | .35 | .37* | .31 | .34 | .41* | .46* | .43* | .37* | .19 |
| SB5 | | | | | — | .43* | .31 | .46* | .29 | -.26 | .03 | .21 | .37* | .01 | .28 | .20 | .41* | .29 | .41* | .41* |
| SB6 | | | | | | — | .42* | .67** | .73** | -.11 | .10 | .39* | .29 | .48** | .45* | .36* | .55** | .65** | .64** | .52** |
| SB7 | | | | | | | — | .37* | .36 | -.02 | .16 | .17 | .34 | .20 | .29 | .48** | .62** | .37* | .27 | .26 |
| SB8 | | | | | | | | — | .46* | .03 | .06 | .31 | .19 | .29 | .54** | .15 | .47** | .64** | .49** | .31 |
| SB9 | | | | | | | | | — | -.07 | -.12 | .22 | .10 | .35 | .30 | -.01 | .48** | .47** | .37* | .47** |
| SB10 | | | | | | | | | | — | .11 | .10 | -.16 | -.06 | -.05 | .02 | -.02 | -.04 | -.06 | -.14 |
| SB11 | | | | | | | | | | | — | .26 | .41* | .15 | .38* | .60** | .11 | .16 | .22 | .15 |
| SB12 | | | | | | | | | | | | — | .25 | .44* | .44* | .48** | .36 | .58** | .45* | .03 |
| SB13 | | | | | | | | | | | | | — | .15 | .50** | .58** | .46* | .19 | .25 | .29 |
| SB14 | | | | | | | | | | | | | | — | .29 | .53** | .71** | .52** | .24 | .24 |
| SB15 | | | | | | | | | | | | | | | — | .33 | .32 | .28 | .27 | .27 |
| SB16 | | | | | | | | | | | | | | | | — | .60** | .29 | .11 | .11 |
| SB17 | | | | | | | | | | | | | | | | | — | .55** | .29 | .29 |
| SB18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | — | .47** | .47** |
| SB19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | — | .47** |
| SB20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | — |

* $p < .05$, ** $p < .01$, $d = 28$. SB1=選択の注意, SB2=自主性, SB3=背景知識や広い文脈を使う, SB4=言語的な手がかり/すぐ周りの文脈を使う, SB5=理解のための辞書ストラテジー, SB6=拡大したストラテジー, SB7=辞書を引くためのストラテジー, SB8=意味を重視したノートテイキングストラテジー, SB9=用法を重視したノートテイキングストラテジー, SB10=リストを使う, SB11=口頭による繰り返し, SB12=視覚による繰り返し, SB13=連想/精緻化, SB14=イメージを使う, SB15=視覚的なエンコーディング, SB16=聴覚的なエンコーディング, SB17=語構造を使う, SB18=意味的なエンコーディング, SB19=文脈的なエンコーディング, SB20=活性化ストラテジー。

傾向があると言える。それから、「SB8意味を重視したノートテイキングストラテジー」と「SB9用法を重視したノートテイキングストラテジー」($r = .80$)は「C4ノートテイキングストラテジー」というカテゴリーに属している。このペアに強い相関関係があったことから、学習者は通常時の映像作品視聴において、語彙に関してメモを取る際、その意味と用法の両方を重視していると考えられる。

他の3つのペアは、異なるカテゴリーに属しているストラテジーブロックである。まず、「SB1選択の注意」と「SB5理解のための辞書ストラテジー」($r = .72$)のペアの間に強い相関関係があったことにより、通常時の映像作品視聴時に、学習者は、注意を向ける語彙を選択した後、その意味を理解するために辞書で調べる傾向があることがわかった。次に、「SB1選択の注意」と「SB7辞書を引くためのストラテジー」の強い関係性 ($r = .72$) は、通常時の映像作品視聴時に、学習者は注意を向ける語彙に対して、語形変化した語の形を戻したり、語構造の知識を活用したりしながら、辞書で調べていることが多いことを示唆している。また、「SB1選択の注意」と「SB19文脈的なエンコーディング」($r = .71$)のペアにも強い相関関係が見られた。天野(2017)によると、文脈的なエンコーディングとは、語彙単体ではなく、その語彙が使われる文や文脈を用いて語彙を習得することを指している。よって、通常時の映像作品視聴時に、学習者はどの語彙に注意を払うかを決め、その語彙が映像作品の中で出現した文脈を用いて語彙を記憶する傾向があると推測できる。

5.2 調査時の映像作品視聴における語彙学習ストラテジーの関連性

調査時の映像作品視聴における語彙学習ストラテジーの関連性についても見てみよう。ピアソンの相関分析を行った結果、表3に示しているように、4つのペアのストラテジーブロックの間に、強い正の相関関係が見られた。

まず、同じカテゴリーに属するペアは3つある。「SB3背景知識や広い文脈を使う」と「SB4言語的な手がかり/すぐ周りの文脈を使う」($r = .70$)は、5.1節で説明したように、「C2文脈推測ストラテジー」というカテゴリーに属するものであり、学習者は調査時の映像作品視聴時に語彙学習をする場合も、広い文脈と前後の文脈を統合的に利用していることがわかった。そして、「SB14イメージを使う」と「SB18意味的なエンコーディング」($r = .75$)、「SB15視覚的なエ

ンコーディング」と「SB18意味的なエンコーディング」($r=.71$)の2つのペアに関して、この3つのストラテジブロックは全て「C6エンコーディングストラテジー」というカテゴリーに属しており、語彙の記憶強化と関連しているものである。天野(2017)によると、意味的なエンコーディングとは、意味ネットワークや、語彙のカテゴリーを作成して語彙を習得することを指している。この2つのペアより、調査時の映像作品視聴において、意味の関連性に基づいた語彙の記憶強化と、イマジネーションや視覚情報を使った語彙の記憶強化とが共起しやすいことがわかった。つまり、学習者は、脳内の想像や実際の視覚情報を用いて自分の意味システムを拡大する傾向があると推測できる。

最後の1つのペアは異なるカテゴリーに属するものである。「C3辞書ストラテジー」に属す「SB6拡大したストラテジー」と「C4ノートテイキングストラテジー」に属す「SB9用法を重視したノートテイキングストラテジー」($r=.73$)である。前者は、語彙の使用法や他の語彙との区別などを知るために辞書を使うストラテジーであり、後者は語彙の文法的情報や使用法などをメモするストラテジーである。この2つが共起しやすいことから、調査時に、学習者は自分の学習対象となった語彙に対して、その使用法に注意を向けた場合、それをメモに留める傾向があるとわかった。

5.3 通常時と調査時の比較

通常時と調査時の映像作品視聴における語彙学習ストラテジー間の関連性についての比較もした。特徴的なものとして、以下のことが挙げられる。

まず、調査時は通常時より、中程度以上の相関関係にあるペア($r=0.4\sim 1.0$)が18増えた。つまり、学習者は、限られた時間の中で語彙学習に対する意識を促された場合に映像作品の視聴に臨むと、通常時より、様々な語彙学習ストラテジーと一緒に使用する傾向が強まる可能性がある。

そして、「SB3背景知識や広い文脈を使う」と「SB4言語的な手がかり/すぐ周りの文脈を使う」のペアだけ、いずれの場合においても相関関係が強かった。これにより、学習者は、映像作品の視聴が授業内外にかかわらず、映像の中の文脈情報を統合的に利用して語彙を学習している可能性が示唆されている。

次に、通常時の場合は強い相関関係を示したが、調査時は中程度の相関のある

($r=0.4\sim 0.7$)のペアへ、あるいは、有意な相関のないペアへと相関性が弱くなったものが5つある。「SB8意味を重視したノートテイキングストラテジー」と「SB9用法を重視したノートテイキングストラテジー」に関しては、調査時に語彙の意味と用法と一緒にメモする傾向が弱くなったことより、授業内で映像作品を利用する場合、その時間制限により、学習者は通常時ほどメモをきちんと整理できないという問題がある可能性が考えられる。「SB1選択の注意」と「SB5理解のための辞書ストラテジー」に関して言えば、注意を向ける語彙を選ぶことと、辞書を引いてその意味を理解することとの関連性が弱くなったことは、調査時に、気になっても辞書で語彙の意味を調べないことが通常時より多くなったことを示唆している。これは、調査時の時間制限と関係している可能性がある。「SB1選択の注意」と「SB19文脈的なエンコーディング」に関して言えば、調査時に、注意を向ける語彙を選ぶことと、文脈を使って語彙を記憶することとの関連性が弱くなったことは、少々理解しづらいため、さらなる調査が必要である(一つの可能性として、調査時と比べて、映像作品の中の文脈に頼って語彙を記憶する傾向がより強いことが挙げられる)。「SB1選択の注意」と「SB7辞書を引くためのストラテジー」、「SB5理解のための辞書ストラテジー」と「SB7辞書を引くためのストラテジー」に関しては、調査時に、学習者は注意を向ける語彙に対して、語形変化した語の形を戻したり、語構造の知識を活用したりしながら辞書で調べる傾向、そして、語彙を理解するための辞書ストラテジーと辞書を引くためのストラテジーと一緒に使用する傾向が見られなくなった。これは調査時に語彙を調べる際、語形変化や語構造の知識などを使うよりも、聞いた発音をそのまま調べたほうが早いと思っただからかもしれない。

一方で、通常時の場合は有意な相関関係がなかったが、調査時は強い相関関係を示したものもある。「SB14イメージを使う」と「SB18意味的なエンコーディング」、「SB15視覚的なエンコーディング」と「SB18意味的なエンコーディング」に関しては、学習者は通常時と比べて、調査時に、視覚的情報をより活用していることがわかる。その理由として、学習者は限られた時間の中で、映像作品にある視覚情報を使って語彙の記憶を強化したほうが効率的だと思っただ可能性が考えられる。

また、相関関係の強さと関係なく、有意な正の相関関係を示したペアを概観

すると、通常時の視聴では様々な語彙学習の段階（D1～D4）に当たるものがあるが、調査中では、語彙の記憶強化（D3）に関するペアの数のみが大幅に増加した。特に、「S15 視覚的なエンコーディング」、「S16 聴覚的なエンコーディング」と「S17 語構造を使う」は通常時は他のストラテジーとほぼ関連性がないが、調査時には多くのストラテジーとの有意な相関関係が認められた。このことは、調査中に、学習者はより視聴覚の刺激や情報、または語構造を利用して語彙を覚えようとする傾向が強かった可能性を示唆している。一方で、例外として、語彙の記憶強化に属する「S10 リストを使う」と「S11 口頭による繰り返し」は、調査時より、通常時のほうがより多くのストラテジーと有意な相関関係を持っている傾向があった。前者に関しては原因が不明だが、後者に関しては時間制限以外に、調査時に声を出しづらいと思った学習者がいることとも関連している可能性がある。授業中に映像作品を利用する場合にも、このような状況が多いと考えられる。

6 日本語教育への応用

以上により、映像作品を授業中に利用する際の語彙学習にあたって、以下の提案をする。(1) 全体的に、映像の中の文脈情報を統合的に利用して語彙を学習することのできる学習者が多いため、それができない学習者に対して、個別に指導を与えることを勧める。(2) 語彙学習の意識を促し、学習者に意味の知らない語のみならず、より多くの発音や用法などに気づかせるようなタスクを導入することが重要である。例えば、視聴後に穴埋め問題を出し、学習者が視聴中に気づいていない可能性のある語彙知識を意識させる。(3) 学習者に語彙の記憶強化をより効率に行わせるために、授業の中で、映像作品自体に含まれている情報を使って語彙を覚えるように訓練することを勧める。(4) 授業中は、グループディスカッションなど、学習者が声を出してもいい時間を作ることによって、音声面で語彙の記憶を強化させることを勧める。(5) 中級以下の学習者に対して、語形変化や語構造に関する基本的な知識を事前に教えてから、あるいは、教えながら映像作品を利用したほうが、よりスムーズに進められると考えられる。

また、授業後に関しては、以下の提案をする。(1) 学習者に様々な語彙学習

ストラテジーを組み合わせさせて使用させるために、語彙学習ストラテジーのチェックリストなどを渡して、学習者に宿題として様々な組み合わせを試してもらい、感想を報告させることを勧める。(2) 学習者は、授業中に学習した語彙知識をきちんと整理する時間的な余裕がない可能性があるため、授業後に各自のメモを整理してもらうことによって、記憶強化もできるし、学習したことを振り返るような習慣を身に付けさせることもできると考えられる。(3) 授業中に学習者に映像の中の語彙を調べさせると時間がかかるため、授業後に次回使う映像作品を観させ、調べておいてもらうといいかもしれない。調べる方法に関しては、そのまま聞いた発音で調べる方法と語形変化や語構造などの知識を使って調べさせる方法があるが、前者は聞き間違いや音声上の問題に気づきやすいのに対して、後者は学習者の基礎知識を確かめることができるので、教師が学習者のレベルによって、違う方法を勧めることを提案する。

以上、教師にできることを色々と提案したが、教師が学習者に全てをしてあげるのではなく、学習者の自主性を引き出して積極的に参加してもらうことも必要である。また、Oxford (1990) が指摘しているように、優秀な学習者ほど多様なストラテジーを使用している。全ての学習者にとって良いというストラテジーは存在しないため、できるだけ多くのストラテジーを身に付けてもらい、異なる状況に応じて効率的に使用できるように指導することが重要である。

7 まとめと今後の課題

本稿は、日本語教育における映像作品の利用に関して、通常時の視聴と調査時の視聴という2つの場合に分けて、中国語母語話者が日本語の映像作品を視聴する際に使用する語彙学習ストラテジー間の関連性およびその違いを明らかにした。通常時の視聴で使用された語彙学習ストラテジー間の関連性について、6つのストラテジーブロックの間に強い正の相関関係が見られ、文脈の統合的な利用や意味理解のための辞書の使用、意味と使用の両方を重視したノートテイキング、選択的な注意と辞書の使用の関連性などが示唆されている。そして、調査時の視聴で使用された語彙学習ストラテジー間の関連性に関して、4つのストラテジーブロックの間に強い正の相関関係が見られ、文脈の統合的

な利用以外に、意味やイメージ、視覚情報による語彙の記憶強化や辞書の使用とノートテイキングにおける気づきなどが注目される。また、この2つの場合を比較すると、通常時の状況と比べると、調査時は、有意な相関関係を持っているペア数が増加し、中でも、記憶強化のためのストラテジーはほかのストラテジーと一緒に使われることが多くなったことがわかった。さらに、その結果により、日本語教育への応用に向けて、授業中と授業後にできることをそれぞれ提案した。今後の課題として、学習者による自己申告とストラテジーの使用実態の観察を照合することと、日本語の映像作品の視聴に合わせて、より大きなサンプルサイズで再調査し、より適切なストラテジーリストを構築することが考えられる。〈京都大学大学院生〉

(Eds.) 英語学習策略実証研究 (pp.388-409). Xi'an: Shaanxi Normal University Press.
 Gu, Y., & Johnson, R. K. (1996) Vocabulary Learning Strategies and Language Learning Outcomes. *Language Learning*, 46(4), pp.643-679.
 Nation, P. (2001) *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
 Oxford, R. (1990) *Language learning strategies: What every teacher should know*. Rowley, MA: Newbury House.
 Oxford, R. (2003) Toward A More Systematic Model PFL2 Learner Autonomy. In P. Palfreyman & R. Smith (Eds.) *Learner Autonomy Across Cultures: Language Education Perspectives* (pp.75-91). Great Britain: Palgrave Macmillan.

付録 質問紙項目

中国語による質問紙を用いて調査を行った。実際の質問項目の日本語訳を記す。

| SB | ストラテジー項目 |
|----|--|
| 1 | 1) 映像作品の内容を十分に理解するために、どの語を理解しなければならないかわかる。 2) 映像作品視聴時、どの語を学習することが自分にとって重要であるかわかる。 3) 映像作品視聴時、自分にとって意味が推測できる語と推測できない語を判別できる。 4) 映像作品視聴時、興味のある語を調べる。 5) 映像作品の中で新しい語に遭遇した時、覚えておく必要があるかどうか明確にわかる。 6) 映像作品視聴時、ある語の意味を推測するために、どのような手がかりを使用すべきかを知っている。 7) 映像作品視聴時、自分にとって重要そうな語をメモする。 |
| 2 | 8) 映像作品視聴後、自ら興味を持っているほかの映像作品を積極的に探す。 9) 映像作品視聴時、日本語の先生が学習するように指示しなかった語は学習しない。(反転項目) 10) 映像作品視聴時、日本語のテストに直接関連している語のみに注目する。(反転項目) 11) 映像作品視聴時、日本語の先生が授業で説明しなかった語を気にしないようにする。(反転項目) 12) 映像作品視聴時、様々な方法を使ってあまり理解していない語を理解しようとする。 |
| 3 | 13) 映像作品視聴時、ある語の意味をすぐに推測できない場合は、別の手がかりを使ってもう一度推測する。 14) 映像作品視聴時、作品の文脈の論理的な展開(例えば、因果関係)を利用して、語の意味を推測する。 15) 映像作品視聴時、自分が持っている一般常識と知識を使って語の意味を推測する。 16) 推測した語の意味を、映像作品の文脈に戻して、通じるかどうかを確認する。 17) 語の意味を推測する時に、映像作品のテーマについて自分が持っている知識を使う。 18) 映像作品の中で他の語や表現を探して、ある語の意味についての自分の推測を確認する。 19) 映像作品にある定義や解釈を通して、ある語の意味についての自分の推測が正しいかどうかを確認する。 |
| 4 | 20) 映像作品視聴時、文の文法的構造に関する知識を使って新しい語の意味を推測する。 21) 映像作品視聴時、新しい語の意味を推測するために、前後の映像にある例を利用する。 22) 映像作品視聴時、品詞に関する知識を利用して新しい語の意味を推測する。 23) 映像作品の中の新しい語の意味を推測する時、すぐ周りの文脈を利用して自分の推測が正しいかどうかを確認する。 24) 映像作品視聴時、語の意味を推測するために、語の構造を分析する。 |
| 5 | 25) 映像作品視聴時、馴染みのない語に何度も遭遇したら調べる。 26) 映像作品視聴時、特定の語に対して自分の推測を確認したい場合は調べる。 27) 映像作品視聴時、特定の語の意味がわからないことで、その文、さらに、映像作品の一部の理解に支障が出る場合は調べる。 28) 映像作品を視聴する際、文か映像の一部を理解するのに重要な語を調べる。 |
| 6 | 29) 映像作品の中の語を辞書で調べる時、その使用例も見る。 30) 映像作品の中の語を調べる時、その語に関連するフレーズや表現も調べる。 31) 映像作品の中の語を調べる時、辞書を参照しながら、語のニュアンスを理解する。 32) 映像作品視聴時、ある程度知っている語についてももっと知りたい時は調べる。 33) 映像作品の中で少し知っている語の使用についてはっきりとわからない時は調べる。 34) 映像作品視聴時、2つ以上の語の違いを知りたい時は調べる。 35) 映像作品の中の語を辞書で調べる時、その語の様々な意味での例文を見る。 36) 映像作品の中のある語の定義を調べる時、別の新しい語にも興味を持つようになると、その語も調べる。 |

参考文献

天野裕子 (2017) 「JSL中国人学習者の語彙学習ストラテジーと受容語彙サイズとの関連」『地球社会統合科学研究』6, pp.1-15. 九州大学
 岩下智彦・岩本尚希・三國喜保子・谷口美穂 (2012) 「マルチメディア日本語コンテンツ使用時における学習ストラテジーの特徴」『桜美林言語教育論叢』8, pp.125-141.
 谷口美穂 (2012) 「映像作品を用いた日本語教育一教師へのインタビューから見えた授業の実態と課題」『桜美林言語教育論叢』8, pp.143-158.
 谷口美穂・ローズ平田昌子・岩下智彦 (2013) 「映像を用いた実践における語彙学習プロセス—関与負荷仮説の枠組みによる教室内インターアクションの分析」『言語教育研究』4, pp.1-8.
 古樋直己 (2009) 「偶発的語彙習得と英語力、語の頻度、コンテキストの関係—英語字幕付き邦画を用いた場合」『映画英語教育研究』14, pp.29-40.
 保坂敏子・Gehertz 三隅友子・門脇薫 (2012) 「映像作品を利用した日本語教育の体系化に向けて—海外における利用実態と教師の意識から」『2012年度徳島大学国際センター紀要・年報』pp.47-59.
 ローズ平田昌子・岩下智彦・谷口美穂 (2014) 「映像を用いた実践における語彙知識の深まり」『桜美林言語教育論叢』10, pp.119-137.
 Ghazal, L. (2007) Learning Vocabulary in EFL Contexts through Vocabulary Learning Strategies. *Novitas-Royal*, 1(2), pp.1307-4733.
 Gu, Y. (2010) Learning Strategies for Vocabulary Development. *Reflections on English Language Teaching*, 9(2), pp.105-118.
 Gu, Y. (2018) Validation of An Online Questionnaire of Vocabulary Learning Strategies for ESL Learners. *Studies in Second Language Learning and Teaching*, 8(2), pp.325-350.
 Gu, Y., & Hu, G. W. (2003) 词汇学习策略, 词汇量与英语成绩的变化. In Q. F. Wen & L. F. Wang

| | |
|----|---|
| 7 | 37) 映像作品に出現した新しい語が基本形でない場合、基本形に戻してから調べる。例:「書いた」の形で出現した場合は「書く」を調べる。 38) 映像作品に出現した新しい語が接頭辞または接尾辞のある語である場合、調べる際は語幹を入力してみる。 39) 映像作品の中の多義語と同形異義語を検索する場合、その語の品詞や発音、語形、コロケーションなどの情報を使って判断する。 40) ある語に対する辞書の定義を、映像作品でその語が使われたところに戻して、コロケーションや品詞などによって、その文脈における意味を理解しようと試みる。 |
| 8 | 41) 映像作品視聴時に調べた語の意味をメモする。 42) 映像作品視聴時、調べている語の意味が自分の個人的な関心に関係している場合はメモする。 43) 映像作品視聴時、調べた語の同義語や対義語などを一緒にノートに書く。 44) 映像作品視聴時、調べた語とともに、日本語での同義語または日本語での解釈も書く。 45) 映像作品視聴時、調べた語の中国語および日本語での同義語をノートに書く。 |
| 9 | 46) 映像作品視聴時、有用な表現やフレーズを見たらメモする。 47) 映像作品視聴時、調べた語のコロケーションをメモする。 48) 映像作品視聴時、調べた語に関連する文法情報をメモする。 49) 映像作品視聴時、調べた語の様々な意味での例文をメモする。 |
| 10 | 50) 映像作品を視聴する際、単語リストを作って新出語彙を記録する。 51) 映像作品視聴時、カードの片面に新しい語を書き、その裏面に語の解釈を書く。 52) 映像作品視聴時に作った単語リストを保存する。 53) 映像作品視聴時に作った単語リストの中の全ての語を理解できたと確信するまで、繰り返しそのリストをチェックする。 54) 映像作品視聴時に遭遇した新出語彙を単語カードに書き、常に持ち歩く。 55) 映像作品視聴時に記録した新出語彙に対して、定期的かつ構造的に復習する。 |
| 11 | 56) 映像作品の中の新出語彙を覚えようとする時、それを自分に繰り返して言い聞かせる。 57) 映像作品を視聴時、調べた語を繰り返し発音することは、私にとってその語を覚えるのに十分である。 58) 映像作品の中で遭遇した語を覚えようとする時、頭の中でその語を繰り返し発音する。 |
| 12 | 59) 映像作品の中で遭遇した語を覚えようとする時、その語を何度も書く。 60) 映像作品の中の新出語彙の振り仮名を覚えようとする時、仮名を一字ずつ覚える。 61) 映像作品の中の新しい語を覚えるために、その語と中国語で対応する語を繰り返し書く。 |
| 13 | 62) 映像作品の中の新出語彙のうち、語形が似ている語と一緒に覚える。例:「爽やか」と「華やか」。 63) 映像作品に出現した新しい語を、発音が語形が似ている既知の語と関連付ける。 64) 映像作品の中に出現した新しい語を、既知語に関連付ける時、まず中国語で文を作成してみる。 65) 映像作品に出現した特定の語(例えば、「臭い」)を覚えようとする場合、それを身体感覚と関連付ける。 |
| 14 | 66) 映像作品の中に出現したある語をよりよく覚えるために、その意味を実演する。 67) 映像作品の中に出現したある語をよりよく覚えるために、頭の中でイメージを作る。 68) 映像作品の中の新しい語を覚えるために、その仮名と意味を関連付ける。例:「もも」は正座をしている2本の腿のように見える。 69) 映像作品の中の新しい語を既知の語に関連付ける際、頭の中でその関連性を示すイメージを作る。 |
| 15 | 70) 映像作品の中の新しい語を覚えるために、その語を見える形にする。 71) 映像作品の中で遭遇した新しい語を、語形が似ている既知の日本語に結びつける。 72) 映像作品の中の新しい語をいくつかの視覚的な部分に分けて覚える。例:「難しい」と「かしい」に分ける。 |
| 16 | 73) 映像作品を視聴する際、発音が似ている語と一緒に覚える。 74) 映像作品を視聴する際、振り仮名が似ている語と一緒に覚える。 75) 映像作品の中の新しい語を、発音が似ている既知の日本語と関連付けて覚える。 |
| 17 | 76) 映像作品視聴時、語構造に基づいて語を分析して記憶を強化する。 77) 映像作品視聴時により多くの語を覚えるために、語構造のルールを研究する。 78) 映像作品視聴時により多くの語を覚えるために、よく使用される語幹や接頭語、接尾辞などを覚える。 |
| 18 | 79) 頭の中で語のネットワークを作り、同義語を同じグループに入れる。映像作品視聴時に遭遇した新出単語をそのグループの中に入れて覚えることを試みる。 80) 映像作品の中で新しい語に遭遇した時、自分の既知の語に、その語の同義語と対義語があるかどうかを確認する。 81) 映像作品から学んだ語を分類する。例:動物、道具、野菜など。 |
| 19 | 82) 映像作品の中の特定の語を覚えようとする時、その語が使われた文を覚える。 83) 興味のある分野の映像作品を自ら探し、その中から既知の中国語の専門用語に対応する日本語を見つけて覚える。 84) 映像作品の中の新しい語を覚える時、その新しい語が使われた場面まで一緒に覚える。 85) 語をよりよく覚えるために、映像作品の文脈の中で学習する。 |
| 20 | 86) 覚えようとした語を運用するために、できるだけ多くの映像作品を視聴する。 87) 映像作品視聴後、映像作品から学習した語を使って文を作ってみる。 88) 映像作品から学んだ新しい語を、スピーチライティングでできるだけ使ってみる。 89) 映像作品から学んだ新しい語を、実際の場面で使ってみる。 90) 映像作品から学習した新しい語を、想像したシーンの中で使ってみる。 |